

2 「ひとめぼれ」の発芽特性とその対応策

福島県農業試験場種芸部・平成12年度農業試験場試験成績概要

1 部 門 名 水稻－水稻－品種－生理・生態 分類コード 01－01－01040000

2 担 当 者 荒井義光・伊藤博樹・斎藤隆・渡邊和弘

3 要 旨

「ひとめぼれ」による直播栽培では、苗立ち率の低下や出芽揃いの悪さが問題となっているため、採種後の経過月数と枝梗別の発芽特性について検討した。また、浸種や催芽における最適な温度と時間について併せて検討した。

(1)「ひとめぼれ」は、12月から翌年4月まで一次枝梗、二次枝梗ともに置床後7日目の発芽率が10%前後と低く、5月が40～50%、6月以降が概ね90%以上となり、直播の播種時期である4月から5月は休眠が覚醒中であり、播種時期が早い時期ほど休眠の影響を受け やすいと考えられた。

(2)「コシヒカリ」は、「ひとめぼれ」とほぼ同様の傾向が認められたが、2月から5月の発芽率が「ひとめぼれ」より高く、休眠の程度は「ひとめぼれ」より低いと考えられた。

(3)「ひとめぼれ」では、浸種温度が15℃で積算温度105～120℃とし、催芽時間は24時間ではやや短く、48時間程度必要と考えられた。

4 主な参考文献・資料

(1)平成11年度春夏作試験成績概要(稲作)